

三村優美子先生退任記念号に寄せて

経営学部長 安 田 洋 史

三村優美子先生は、本学の規程により2020年3月に定年を迎えられ退職されました。以下に述べますように、先生が本学、とりわけ経営学部において果たされた功績は計り知れないものがあります。先生の長年のご貢献に対する感謝の気持ちを込めて、ここに青山経営論集第55巻第4号を退任記念号として刊行することとなりました。多くの関係者のご協力をいただきながら、それぞれの深い想いが詰まった論集が出来上がったと思います。

三村先生のご経歴を簡単に紹介させていただきます。先生は慶應義塾大学商学部を卒業後、同大学大学院商学研究科修士課程ならびに博士課程に進まれ、1991年1月に同大学より商学博士の学位を授与されました。(社)流通問題研究協会、国際商科大学、東京国際大学を経て、1996年4月に本学経営学部教授に就任され、教務主任などを歴任されたのち、2016年4月から2020年3月まで経営学部長を務められました。この間、大学運営にも深く関わられ、2011年4月から2016年3月までは大学図書館長として、新図書館建設構想の礎を築かれました。この間の数多くの功績が認められ、2020年4月に本学より名誉教授の称号が授けられました。

また学外においても、日本商業学会、日本広告学会、経営哲学学会、日本フードサービス学会などで活躍され、数多くの研究成果を発表して我が国の流通研究の新しい展開を牽引されました。著書・訳書も多く出版され、先生が邦訳を手掛けられたコトラー教授の『マーケティング・マネジメント』は、多くの学徒にとって導きの書となりました。さらに中小企業政策審議会委員、郵政民営化委員会委員、医療用医薬品の流通改善に関する懇談会委員などの公職にも就かれ、研究や教育を通して得られた知見を広く社会に還元する活動にも取り組まれました。

三村先生は常に時代の変化を捉えた経営教育の実現に尽力されてきました。学部・大学院の教育ではマーケティング論、流通論や流通政策などの科目と研究指導を担当され、学生にマーケティングの重要性と面白さを伝えられました。先生のゼミからは350名を超える卒業生が社会に巣立ち、15名の大学院生が先生の指導のもとで学位を取得し、門下から多くの優れたマーケティング研究者が輩出しました。学部長としては経営学部のカリキュラム改革と入試改革を主導され、社会の大局的变化に応えた人材育成を掲げて、データサイエンス科目や外国語科目の充実とともに課題解決型学習・体験型学習の強化に取り組まれました。さらに経営学部アカデミアセッションや経営学部英語力向上プログラムなどの企画を次々と立ち上げられ、経営学部をより一層魅力的な学部とするための施策に力を注がれました。

三村先生はいつも優しく穏やかな表情を漂わせながらも、そのリーダーシップを遺憾無く発揮して学部運営にあたられました。図らずも三村先生から学部長の職を引き継ぐことになった私は、先生か

ら頂くアドバイスを頼りにその職務を進めることになりましたが、相談に伺うたびにいつも懇切に取るべき方向を示してくださいました。後になってその一つ一つがすべて良い結果に繋がっていることを知ると、先生の先見力と判断力に畏れ入るとともに、ここまで導いていただいたことに対して感謝の念に堪えません。教育、研究、大学・学部運営を通して三村先生が本学に残された足跡は、これからも多くの人に引き継がれ発展していくものと思います。先生の今後の益々のご健勝とご活躍を心より祈念させていただきます。